

教職大学院 News Letter

協創

創刊号2016.5.15
Since2016

教職大学院の発足に寄せて

新潟大学学長 高橋 姿

新潟大学は「自律と創生」を教育の理念とし、社会のニーズに応える教育の拠点として、多様な価値観を育む自律的な学びの場を提供してきました。そして地域から国際社会まで広く活躍できる問題解決力の高い人材を育成することで、社会に貢献しています。

そのような中であって、この度、新たに教育学研究科教育開発実践専攻（教職大学院）が開設されました。教職大学院には、より高度な実践的指導力を有する新任教員の養成と地域や学校において指導者的役割を果たすことができるリーダーの養成が期待されています。

現在の社会においては、知識・情報・技術が極めて重要な「知識基盤社会」であり、グローバル化等も進み、これまでにない社会展開を示しています。そのような時代にあって、初等中等教育の重要性はますます高まります。本学の教職大学院が、どのような状況にも適応可能な、高い汎用的能力を持つ高度専門職としての教育者を養成する大学院になることを強く祈念しています。関係各位のご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

新潟大学教職大学院の二大特色に期待して

新潟大学理事 大浦 容子

高度情報化、価値多様化が著しい現代社会にあって、国立大学には、社会に有為な人材を輩出することが求められています。新潟大学においても、時代の要請に合わせて教育プログラムの見直しを図っているところであり、この度の教職大学院開設は、本学の改革を進める上で大きな弾みとなりました。

新潟大学教職大学院の最大の特色は、勤務しながら学ぶ現職教員院生が極力学校現場を離れないで履修することを可能にするための仕組みとして「特定連携協力校での必修科目開講」を採り入れた点にあります。特定連携協力校の教育課題を学びの材料として提供していただくことにより、当該の特定連携協力校は元より地域への波及効果も期待されます。もう一つの特色として、総合大学の強みを活かし、他学部の先生方に授業の一部を担っていただくことが挙げられます。

また、授業は全て実務家教員と研究者教員との共同で実施され、学部卒業生と現職教員院生とが年齢や立場を超えてグループを構成し、ディスカッションを中心としたアクティブ・ラーニングが展開されている点も注目に値します。

このような二大特色をもつ新潟大学教職大学院が新潟県・新潟市の教育の質向上に貢献するものとなるよう大いに期待しています。

教職大学院の開設に際して

新潟大学教育学研究科長 鈴木 賢治



新潟大学教育学研究科教育実践開発専攻(教職大学院)を開設することができました。開設に際して、新潟大学内外の皆様のご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

教職大学院では、従来の修士課程とは異なり、実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成と学校における指導的役割を担う指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーの養成を行います。本学の教職大学院で、自らの課題を教育の理論と実践を通じて達成し、教職にふさわしい高度専門性を身につけられるように努力して行く所存です。また、教職の専門性とは何かを常に模索し、教職大学院の充実にと努めたいと思います。

特定連携協力校をはじめ、たくさんの学校現場の連携により、教職大学院は成り立っております。今後とも、皆様のご理解とご協力を、お願い申し上げます。

教職大学院での学びに期待して

新潟大学教育学研究科

教育実践開発専攻長 小久保 美子



教育哲学者の上田薫は、教育を「不完全な教師が不完全な子どもに影響を与えることだ」と定義しています。自分自身の不完全さを意識したとき、私たちはその不完全さを幾分でも埋めるべく、学びの世界に身を置きます。手引きやワークシートを作るのも、ヒントカードを作るのも、実は、自分の不完全なる子どもの見方を全きものに近づけるための教師の学びの営為といえます。

この新潟大学で新しく始まった「現場に身を置き、生の子どもの学びの姿をとらえ、年齢や立場や役割を異にする院生と教師が熱いディスカッションを重ねる」という教職大学院の営みが、自己の実践を精緻に省察し改善につなげていく能力と態度とを養い、それらの能力と態度が学校現場の教育を通して地域を創生する新しい力となっていくことを期待し、教職大学院専任教員一同一丸となって取り組んで参りたいと思います。

関係者の皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



専任教員紹介 (50音順)

9名の研究者教員と6名の実務家教員が着任いたしました。各教員の紹介をいたします。



相庭 和彦
(あいば かずひこ)

職名:教授 (研究者教員)

専門・資格:生涯教育

研究テーマ:生涯学習、社会認識の変容過程

メッセージ:生涯学習について研究しております。特に社会認識の変容過程に文化や伝統およびグローバル化がどのような影響を与えるのかに研究関心があります。今日学校を取り囲む地域社会の変化は、著しいものがあります。教員はこの変化を読み、グローバル化社会対応する新しい教育実践を構想する教育力を身につけていなければなりません。大学院では、生涯学習研究の視点から教員に求められている構想力を修得することを支援していきたいと考えています。



井口 浩
(いぐち ひろし)

職名:准教授 (実務家教員)

専門・資格:教科教育学 (数学教育)

研究テーマ:算数・数学における問題解決的な授業の質。算数・数学の授業改善。

メッセージ:私は以前大学院で、学校現場が抱えている算数・数学の学習指導上の課題に、現場教師と現職教員院生、学部卒院生、大学教員がチームとなって取り組む経験をしました。アクションリサーチとデザインリサーチに基づく実践的研究を行い、その成果を自身の授業改善にも生かしました。本学の教職大学院で、新たな学びを共に創りましょう。



一柳 智紀
(いちやなぎ とものり)

職名:准教授 (研究者教員)

専門・資格:教育心理学 (教授・学習)

研究テーマ:教室のコミュニケーションからみた子どもの学び・教師の学び

メッセージ:具体的な教室でのコミュニケーション (言語・非言語を含め) に着目して、そこで起きている事実を見取り、子どもの学びを捉えると同時に、その時々先生方の思考や判断を明らかにすることを目指しています。みなさんと一緒に授業に対する見識を深め、その教室・先生ごとの授業のあり方を一緒に模索していきたいと考えています。



金子 淳嗣
(かねこ あつし)

職名:准教授 (実務家教員)

専門・資格:学校づくり、学級づくり、授業づくり

研究テーマ:教員の在り方に関する実践的研究

メッセージ:皆さんには、二つの力が与えられています。一つは「未来を変える力」であり、もう一つは「自分自身を変える力」です。目には見えない「想像の翼」を大きく広げ、目指す姿を具体的に思い描きましょう。そして、実践と省察を積み重ねながら自分自身を高め、未来を切り拓いていきましょう。このような躍動感あふれる学びの場が新潟大学教職大学院です。



神村 栄一
(かみむら えいいち)

職名:教授 (研究者教員)

専門・資格:臨床心理学・教育相談 臨床心理士 専門行動療法士

研究テーマ:認知行動療法を基礎とした心理学的支援・教育相談対応

メッセージ:私は教員免許を持たず、教壇は大学や専門学校しか経験ありません。スクールカウンセラーとして中学校の教務室内に机を用意いただいた17年がある程度。不安症や強迫症、習癖、子どものうつ、家庭や親子関係の問題、いじめや荒れの理解と対応が専門。大学院では特に、校内でのケース会議のもち方、“結果にコミット”したその活かし方についてこだわらせていただきます。



雲尾 周
(くもお しゅう)

職名:准教授 (研究者教員)

専門・資格:教育行政学 学校経営 生涯学習

研究テーマ:地域教育経営

メッセージ:学校経営は、学校単独に閉じられたものではもはやなく、地域とともにある学校づくりが求められているし、他の学校との連携、地域内にある様々な機関との協働も必要であり、そこに地域教育経営の構想がある。さらに言えば、教育に限定することなく、どのような地域をつくっていくのかということまで関わるものである。その意味で、学校づくりは地域づくりである。教室での子どもへの一つの声かけであっても、そのように広がっていくことを前提に、広い視野を備えていただきたい。



小久保 美子
(こくぼ よしこ)

職名:教授 (研究者教員)

専門・資格:国語教育

研究テーマ:豊かな言語生活 (読書生活) につながる国語教育のあり方

メッセージ 教師論の究極に、『からすたろう』(原書は“Craw Boy”、米国、1955年)という絵本があります。作者は八島太郎という日本人で、小学校5年生まで、「うすのろ」とか「とんま」などと呼ばれ、馬鹿にされていました。太郎のよさを引き出したのは、小学校6年生になって新しく受け持ちになった、二十歳そこそこの若い男性の先生でした。もし太郎が、その先生に受け持たれていなかったとしたら、アメリカに渡ることも、『からすたろう』の絵本が生まれることもなかったかもしれません。

太郎の先生のように、どんな子どもにも温かなまなざしを注ぎ、よさと可能性を引き出すことのできる教師を、この教職大学院で養成していきたいと考えています。



古田島 恵津子
(こだじま いつこ)

職名:教授 (実務家教員)

専門・資格:特別支援教育・特別支援教育士 SV

研究テーマ:通常学級における特別支援教育

メッセージ:子どもたちが学校の中で生き生きと学び続けるために、読み書きやコミュニケーションの苦手さを早期に発見し、それに対応することが効果を上げています。「ちょっと気になる子」に気づいて、それぞれの立場で共働して対応できる教員を目指して、一緒に研究や実践を深めていきたいと思っています。



高木 幸子
(たかぎ さちこ)

職名:教授 (研究者教員)

専門・資格:家庭科教育、授業づくり

研究テーマ:教員養成段階における授業実践力の養成・教師の力量形成

メッセージ:中学校教諭や義務教育課指導主事など、20年ほどの経験をへて、現在は、教員養成段階における授業実践の力量形成に興味があります。学校生活の中で多くの時間を費やす“授業”をよりよくする力をつけることは、子どもにとって重要であるだけでなく、教師が教師として生きていく基盤となるものです。子どもとともに学び、成長し続ける教師であるために、どのような力を身に付けていけばいいでしょうか。また、どのような環境やシステムの構築が必要でしょうか。ともに考え、チャレンジしていきたいと思います。



高橋 雄一
(たかはし ゆういち)

職名:特任教授 (実務家教員)

専門・資格:学校経営 校内研修 算数科教育法

研究テーマ:戦略的学校経営

メッセージ:今、日本の学校は大きな曲がり角に来ています。これからの教育改革を正面から見据え、児童・生徒の一人一人が自分の夢や目標に向かって個性を伸ばし開花させていく支援のできる力量ある教師が求められています。本教職大学院は、現場を研究のフィールドとして、研究者と教職員がしっかりと手を組んで実践的に研究推進できる新しい学び舎です。是非、自らの資質・能力の無限の可能性を信じて門戸を叩いてください。共に学びましょう。



長澤 正樹
(ながさわ まさき)

職名:教授 (研究者教員)

専門・資格:特別支援教育 特別支援学校専修免許状、特別支援教育士 SV

研究テーマ:通常の学級における特別な支援を要する児童生徒の学習支援と問題行動への対応

メッセージ:6つの領域の学びを通して、教師としても社会人としても多くの人にとってお手本となる教師をめざしてください。そのために、私たち教師陣は支援を惜しみません。共に学ぶことを楽しみにしております。



中島 伸子
(なかしま のぶこ)

職名:准教授 (研究者教員)

専門・資格:発達心理学 (認知発達)

研究テーマ:子どもの概念発達

メッセージ:子どもたちは就学前から家庭や園での生活や遊びを通して様々なことを学び、彼らなりの論理で思考することのできる有能な存在です。幼児期に培った力を引き継ぎ、さらに伸ばすという視点から、子どもの発達の連続性を踏まえた教育のあり方を、子どもの姿を通して、皆さんと共に考えていきたいと思ひます。



兵藤 清一
(ひょうどう せいいち)

職名:准教授(実務家教員)

専門・資格:社会科教育

研究テーマ:義務教育段階におけるカリキュラム編成の在り方

メッセージ: 初等中等教育段階における学校の教育課程編成の在り方について研究しています。特に校種による教育課程, 教科横断的な教育課程, 教科(主に社会科)の教育課程の在り方を探求するとともに, 編成した教育課程を機能させるためのカリキュラム・マネジメントの方法について研究しています。理論と実践の往還を基に, 「新しい時代を生きる子どもたちのための教育課程」を編成する力を養成します。



宮園 衛
(みやその まもる)

職名:教授(研究者教員)

専門・資格:社会科教育

研究テーマ:地域・世界と連携する教育課程編成による授業力形成の研究

メッセージ:新潟県の学校現場に関わって28年が経ちました。その間、研究室と現場を往還する研究を基本としてきました。院生の皆さんと共に地域の教育課題や様々な教育資源を発掘し、単元開発と授業実践を通して教育課程開発研究に取り組んでいきたいと考えます。また、現職院生・学部卒院生の皆さんと共同して、単元開発等に取り組み、学会発表することで広く研究者共同体の中での対話・交流の機会を作り上げたいと願っています。地域を足場に世界と繋がる教育課程編成と授業づくりを通して、子どもの学びを豊かにしたいものです。共に、教育実践の新たな可能性を求めてチャレンジしましょう。



吉澤 克彦
(よしざわ かつひこ)

職名:教授(実務家教員)

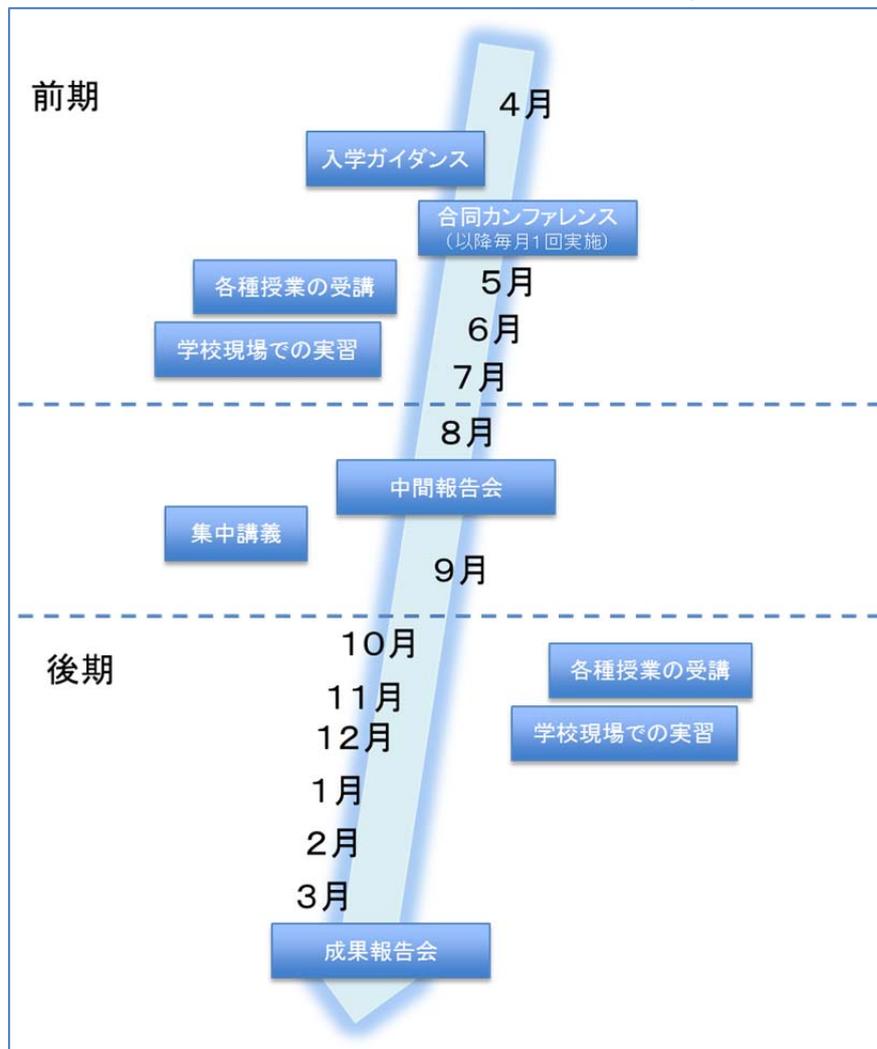
専門・資格:生徒指導 教育相談 ・上級教育カウンセラー、ガイダンスカウンセラー

研究テーマ:QUの分析を活かした生徒理解、学級経営 エンカウンターを用いた人間関係づくり 生徒指導の課題と実践

メッセージ:学校が直面している課題は、多岐にわたります。その解決や克服への軸を教職大学院での学びや教育実践の中でつかみませんか。一人一人をきめ細かに把握すること、学級集団の状況を的確にとらえること、そしてその個や集団を向上させる方途は何かを私たちと共に考え、実践し、検証していきましょう。和衷協同、心を合わせ事に当たりましょう。

年間スケジュール (2016 年度)

2016 年度の大まかなスケジュールは以下のとおりです。



4月～8月
授業を受講
並行して実習を開始

8～9月 夏休み
集中講義
中間報告会

10月～2月
授業を受講
並行して実習を継続

3月 成果報告会

* 合同カンファレンス、各報告会；各自の教育実践および学びの省察を行う科目（課題研究Ⅰ～Ⅳ）の一環であり、長期的スパンでの省察を確保する機会です。2つの報告会は、対外的に開かれた発表の場でもあります。



特定連携協力校の看板

【編集後記】大学内外の様々な方々のご尽力のもと、教職大学院が発足いたしました。異なる背景をもつ者の協働による豊かな学びの創出、それが可能となる学習コミュニティを目指して努力していきたいと思っております（中島）。



教職大学院第1期生と教員（2016.4.6 新年度ガイダンスにて）

新潟大学
教職大学院 News Letter 「協創」 創刊号 2016.5.15 発行
編集・発行・印刷
新潟大学大学院教育学研究科教育実践開発専攻（教職大学院）広報部会
〒950-2181 新潟市西区五十嵐二の町 8050
問い合わせ先: kyousyokudaiqakuin@ed.niigata-u.ac.jp
URL: <http://www.ed.niigata-u.ac.jp/kyousyoku/>
ニュースレターは HP からダウンロードできます。